

ちばの地域福祉

市町村における包括的な相談支援体制づくりに向けて

中核地域生活支援センターがじゅまる
朝比奈ミカ

国は、「地域共生社会」の実現を目指し、その内容を具体的に検討するため、平成28年10月に「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会」を設置し、同年12月28日にその中間とりまとめを公表しました。

少子高齢・人口減少により地域は存続の危機にあり、生活課題は複合化・複雑化し、社会的孤立・社会的排除が深刻化する一方、地域の福祉力は脆弱化しています。中間とりまとめは、今後、①「自分や家族が暮らしたい地域を考える」主体的・積極的な取り組みと「地域で困っている課題を解決したい」と活動する住民、「一人の課題」について解決する経験の積み重ねによる誰もが暮らしやすい地域づくりの3つの方向性により「我が事」の意識を醸成していくこと、②くらしとしごとを「丸ごと」支えること、③地域の持つ力と公的な支援体制が協働していくことを掲げています。

なかでも、住民に身近な圏域で把握された「丸ごと」の相談に対応するために、福祉のほか、医療、保健、雇用・就労、司法、産業、教育、家計、権利擁護、多文化共生等多岐にわたる連携体制が必要で、制度の狭間には地域住民と協働して新たな社会資源を生み出すことを求めています。さらに協働の中核機能として、生活困窮者の自立相談支援機関が中心となり、同機関が設置されていない自治体や生活困窮以外の課題は、昨年度からスタートした「多機関の協働による包括的支援体制構築事業」により体制整備をすすめていくとしています。

厚生労働省は、2020年～2025年を目途に全国の市町村で体制づくりをすすめるとして、通常国会に社会福祉法の改正案を提出し、「我が事・丸ごと」の地域づくりを推進する体制づくりを市町村の役割として位置付けたいとしています。

中核センター事業がめざしてきた「たらい回しにしない」相談体制づくりは、地域包括支援センターや基幹相談支援センターの整備、生活困窮者自立支援法施行を経て、いよいよ正念場を迎えることとなります。私たち、中核センター連絡協議会は、複雑困難な生活課題に対応してきた実践とネットワークを基盤に、県内各市町村における体制づくりに寄与していきたいと考えています。

『すけっと』の地域づくり（印旛圏域）

《印旛圏域とは》

印旛圏域は、千葉県北部の印旛沼を中心とした9市町をいいます。チーバくんでいうと、額のあたりでしょうか。圏域の人口は約70万人です。
(成田市・佐倉市・四街道市・八街市・印西市・白井市・富里市・酒々井町・栄町)



《印旛圏域の相談機関》

印旛圏域は市町村の数が多い圏域で、障害福祉や高齢者福祉、生活困窮等の相談支援機関数も比較的多い圏域です。今年度から地域包括支援センターを委託にする市も複数あり、数も増えました。

※現在の圏域内の主な相談機関数

| | |
|------------------------|------|
| 障害者相談支援事業所（基幹・委託含む） | 37カ所 |
| 地域包括支援センター（直営・委託・支所含む） | 27カ所 |
| 生活困窮者自立支援事業 相談窓口 | 8ヶ所 |

《『いんば圏域福祉関係者合同研修会』～相談支援機関の横のつながり作り～》

そんな印旛を担当する「中核センターすけっと」では、平成23年度から障害者相談支援事業所との顔の見える関係づくりを目指して、みんなで話し合う会を開催してきました。最近では研修も開催し、地域包括支援センターにも参加者として加わってもらっています。

開催にあたり、相談支援機関の方々に企画段階から関わっていただき、内容や講師などについて一緒に話し合い、会を運営しています。昨年度は「ひきこもりの方への支援」をテーマに研修を開催、50名以上の方に参加していただきました。

※これまでの主な開催内容

| |
|---------------------------|
| 委託・指定障害者相談支援事業所との情報交換 |
| 障害者総合支援法と生活困窮者自立支援法について |
| 相談支援とは何か？～相談支援の視点と手法について～ |
| ひきこもりの方への支援 ～高齢化する親と子の対応～ |



最近の相談内容は、世帯全体で複数の問題を抱えていたり、経済的に困窮していたりと、複雑化・広域化・多様化していると感じます。制度上は、障害や高齢などと線引きがありませんが、相談支援では線引きはなかなか難しいものです。そんな中、この会では制度や市町村を超えてつながる機会を提供できる場となればと考えて企画運営しています。

また、相談支援にあたる方は意外と相談支援に従事する方とのつながりが少ないようです。ともすると一人仕事となりやすく孤立してしまうこともありえます。気軽に参加できる会として、同じ相談支援という仕事をする者同士の横のつながりが作れることもとても大切だと感じています。



今後も、地域の皆さんに協力していただきながら、長く継続していきたいと思っています！

『さんぶエリアネット』の地域づくり（山武圏域）

《山武圏域とは》

山武圏域は、千葉県北東部九十九里沿岸地域を中心とした6市町です。

圏域の人口は約21万人、高齢化率が29%の地域です。

（東金市・山武市・大網白里市・九十九里町・横芝光町・芝山町）

《山武圏域の特徴と課題》

山武圏域は、福祉資源を郡市全体で共有・利用する地域です。広域設置の協議会も多くあり、各行政単位での取り組みと、圏域単位の取り組みの両方を大切にしている地域です。



《活動紹介》

山武地域での中核センターの大きな活動の1つとして、『①広域地域・②分野間・③関係機関を繋ぐ』ことに力を入れています。

1. 『地域づくりのかたち～連絡調整会議・自立支援協議会・つながる座談会～』

（1）連絡調整会議

山武地域では、山武健康福祉センターと共催の連絡調整会議及びその部会を通じて、多分野の関係機関と共に、地域課題と情報の共有を図っています。

○高齢者部会：各市町で取り組んでいる地域包括ケアシステムの一助になれるよう、福祉サービス事業所と共に研修・交流の機会づくりに取り組む。

○児童部会：こどもと家庭に焦点を当てて教育機関等と意見交換・情報共有を図る。

（2）自立支援協議会

○障害分野では、3市3町の広域設置である「山武圏域自立支援協議会」の事務局として活動しています。ホームページも開設していますので、ぜひご覧ください。

「<http://sanbu-i.net/>」

（3）「つながる座談会の開催」（※多分野多機関と繋がれる機会を地域の機関と協働で開催）

○医薬と福祉がつながる座談会：（年2回・城西国際大学・薬剤師会・高齢者部会の共催）

○教育と福祉がつながる座談会：（年1回・児童部会・教育機関の協働）

○司法と福祉がつながる座談会：4年ぶりに開催予定。乞うご期待！

2. 『地域づくりのかたち～アウトリーチ活動～』

生活に課題を抱える方を「待つ」のではなく、「探す」支援を積極的に行っています。

（1）東金・大網白里特別支援学校への出張窓口相談会（年3～4回）

・在学中でも生活・福祉の相談ができる場を地域の福祉機関と協力して定期的を開催。

（2）出張講座意見交換会（年10回程度・随時受付）

・当センターが伝えたいことを催事化するのではなく、地域の団体や機関から依頼を受け、地域課題や興味に応じて一緒に催事内容を考えるオーダーメイド方式の出張型講座を開催しています。（例：認知症・精神障害・虐待対策・コミュニケーション法・食事と栄養など）

※今後も、地域のニーズに応じて、臨機応変的にネットワークの軽い地域づくりを心掛けていきますので、皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願いします。

今年度から始まった新企画！ 様々な分野で地域生活支援に取り組んでいる人や団体を紹介するコーナーです。第1回目は『動物分野』。千葉県九十九里沿岸地域で相談支援事業を行うとともに、犬猫支援にも積極的に活動され、犬猫保護団体設立を進めている「窪岡直子さん」を紹介します。

・・・千葉県の犬猫の殺処分ゼロを目指して・・・

12年前より人の命や生活と向き合い、寄り添い、支援させていただいています。支援はその人だけでなく家族や犬猫の問題にも及びます。活動内容を少し紹介します。

★家族が1年ぶりに帰宅したら、母は認知症になっており、1匹だった猫は30匹になり家の中を占領していた。仔猫の貰い手探しをし、成猫はさくら猫(※)にして外飼いにした。

※さくら猫・ノラ猫等の避妊去勢時に片耳の先をカット、オパ済を知らせること。

★生活に限界を感じていた独居高齢者が、大型老犬と住んでいた。入所は希望していたが、息子同然の犬が殺処分されることを心配し、決断されなかった為、犬を預かり看とった。

★ひきこもりの方が保護犬の里親になり、散歩に出るようになった。体調の悪い時に、犬を短期間預かる等の支援を行った。『人が苦手な就労活動も行けない』方でも、相性の良い犬の散歩支援はできた。

犬猫の殺処分数は、昭和49年に1,220,000頭だったものが、平成27年にはおおよそ15分の1の82,902頭になった(環境省林-ム-ジ参照)。「①犬猫の命のため、②犬猫を手放す不安のある高齢・障害の方のため、③現状の作業所や一般就労に結びつかない方の行き場になる」ような団体及び事業所設立のために地道な活動をしています。

つるおかなおこ
窪岡直子

ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～



千葉県中核地域生活支援センター大会 in2017

- 日時：平成29年7月21日(金) 10:00～16:30
- 会場：千葉市生涯学習センター

●全体テーマ

若者たちの見えない貧困を考える ～「我が事・丸ごと」仕組みづくりに向けて～

●シンポジウム1 子ども・若者の現実 ～つながりから遠ざかる人たち～

●基調講演 「我が事・丸ごと」の地域づくりを目指して

講師：本後 健 氏 (厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長)

●シンポジウム2 新たなつながり方を探る

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：君津ふくしネット(君津圏域) 富津市青木2-16-14

TEL 0439-27-1482 FAX 0439-88-1481

アーバンスモール秋山101

編集：さんぷエリアネット(山武圏域) 山武市富田ト748

TEL 0475-53-5208 FAX 0475-80-2808